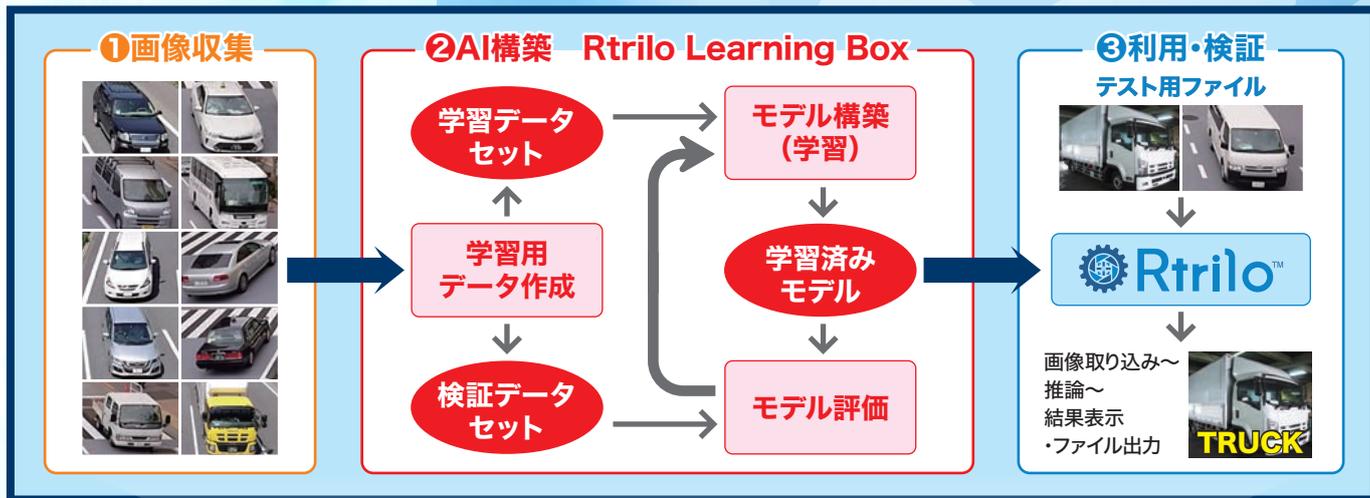


Rtrilo Learning Box

画像分類・物体検出ディープラーニングモデルを簡単に構築

特定の物体検出や画像分類を行うための学習済みモデルの構築には、複雑な前処理や、ディープラーニングモデルの定義、学習パラメータの調整、性能評価など、様々なプロセスが必要になります。

これらモデル構築に必要な機能を搭載した「Rtrilo Learning Box」を利用することで、お客様自身で学習済みのディープラーニングモデルを容易に構築することができるようになります。構築した学習済みモデルは、Rtrilo上で動作させることが可能です。



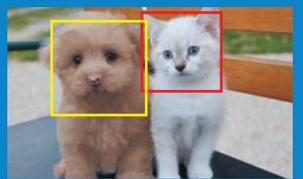
Rtrilo Learning Boxの機能と特徴

1 構築可能なディープラーニングモデル

画像分類 画像が何を表しているかを識別

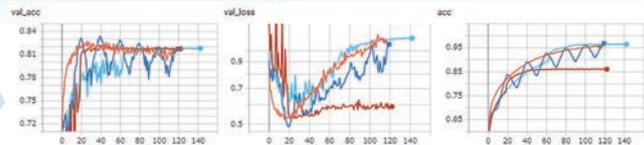


物体検出 画像の中に写っている物体を検出し、それぞれが何を表しているかを識別



学習 3

使用するモデル・不均衡補正・学習サイクル・学習時データ拡張等を設定し、学習実行



- 学習曲線、各種指標（適合率、再現率、F値）、混同行列（Confusion Matrix）の出力
- 誤判定した画像や判断根拠の可視化画像の出力

評価 4

様々な観点からのモデル評価



confusion matrix

True \ Predicted	large	none	small
large	0.857	0.002	0.141
none	0.097	0.769	0.135
small	0.062	0.004	0.934

2 前処理

- アノテーション（教師データ作成）、合成画像作成
- データ分割（訓練/検証/テスト）
- 画像増幅（ノイズ、切り出し、色変換、ぼかし、コントラスト変更、反転、幾何学変換等）

